

健康でより豊かな食生活に貢献

証券コード **2612**

角 かどや製油株式会社
2013年3月期第2四半期
決算説明会



決算概要について

2012年11月7日(水)

取締役執行役員管理部長 戸倉 章博



決算概要について

- 1 . 会社概要
- 2 . 2013年3月期第2四半期 決算概要
- 3 . 2013年3月期 事業計画



1. 会社概要



会社プロフィール(2012年9月30日現在)

◇所在地	本社:東京都品川区
◇創業	1858年(安政5年)
◇設立	1957年(昭和32年)5月2日
◇代表者	取締役社長 小澤 二郎
◇資本金	21億60百万円
◇株主数	6,023名
◇従業員数	277名
◇事業所	本社、工場、 4支店、3営業所、1事業所



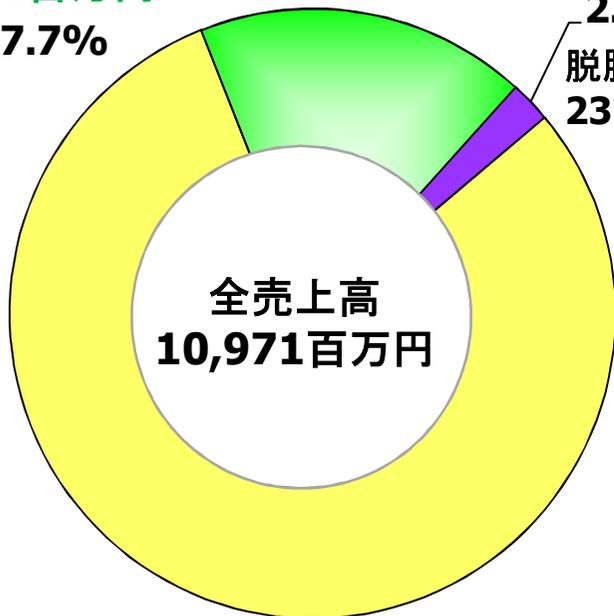
商品別、用途別売上高 (2013年3月期第2四半期)

食品ごま 1,941百万円

17.7%

2.2%
脱脂ごま他
237百万円

ごま油
8,792百万円
80.1%



業務用ねりごま
333百万円

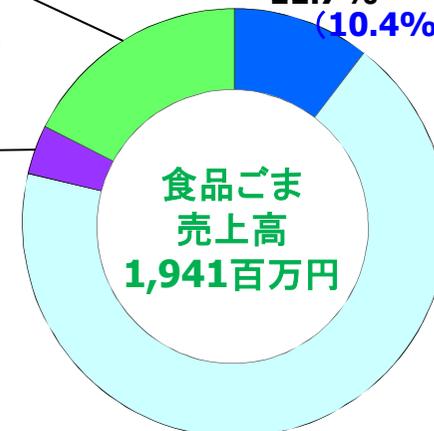
家庭用食品ごま
227百万円

17.2%
(17.6%)

11.7%
(10.4%)

家庭用ねりごま
69百万円

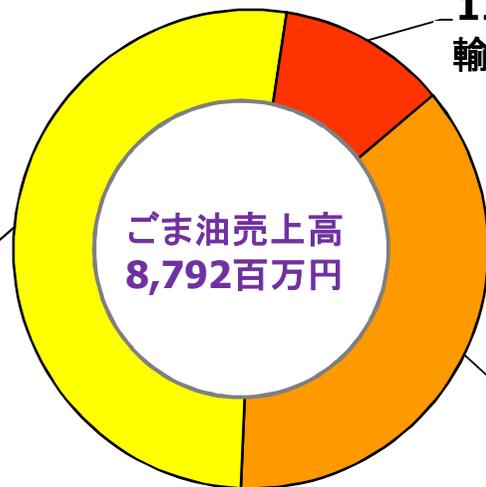
3.6%
(3.7%)



11.4% (10.8%)
輸出用 1010百万円

家庭用
4,542百万円

51.7%
(51.7%)



業務用
3,239百万円
36.9%
(37.5%)

業務用食品ごま
1,309百万円 67.5%
(68.3%)



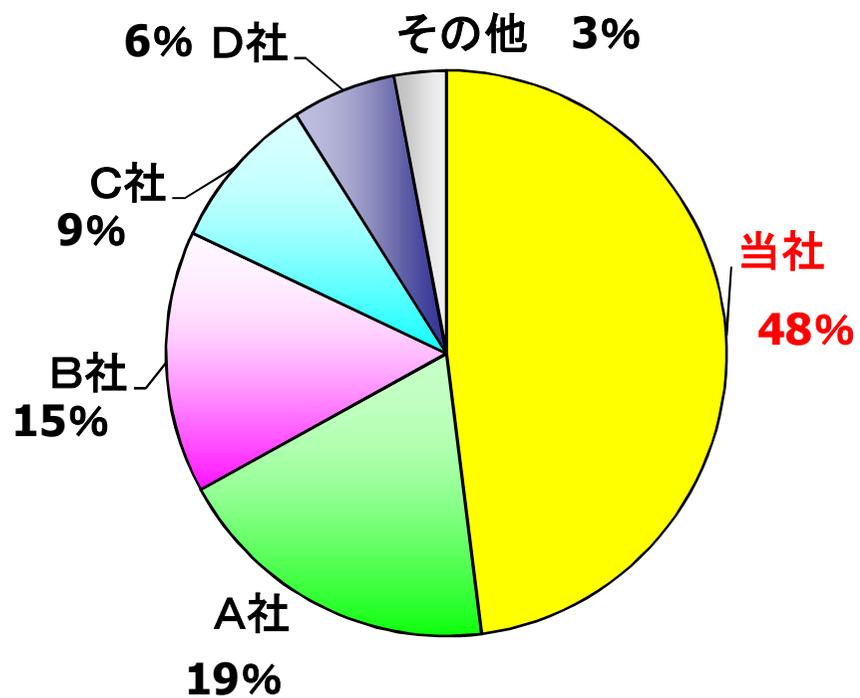
※カッコ内は前年同期の値。



シェア状況

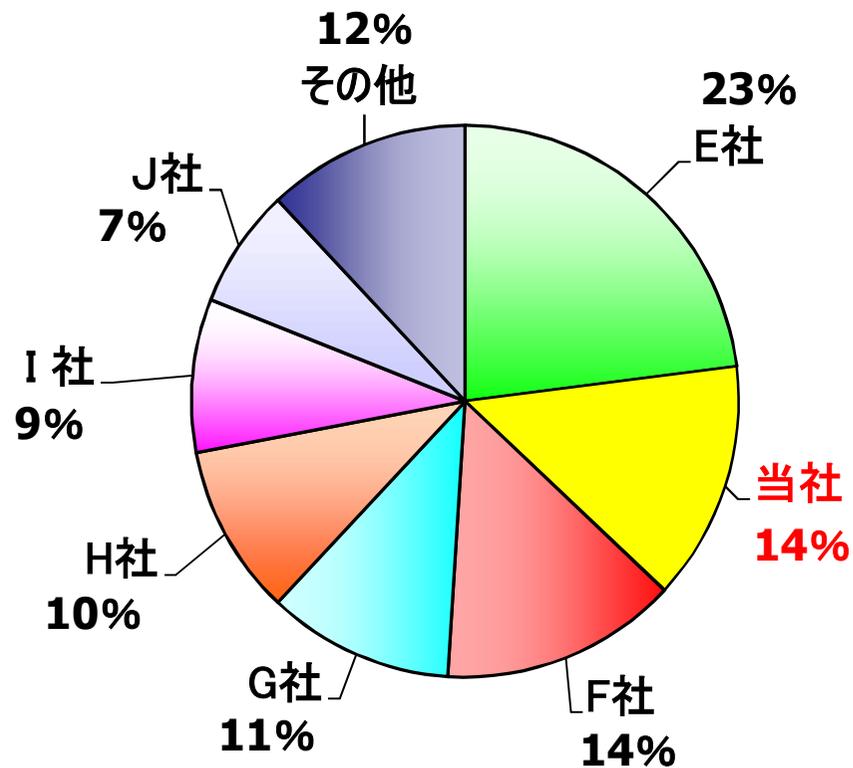
ごま油(2011年1~12月売上高)

市場規模: 約320億円



食品ごま(2011年1~12月売上高)

市場規模: 約280億円



上記数値は【株富士経済】調査による



2. 2013年3月期第2四半期 決算概要



2013年3月期第2四半期 決算の概要

(単位: 百万円)	12年3月期 第2四半期	13年3月期 第2四半期	前期比		増減要因
			増減金額	増減率	
売上高	10,952 <small>ごま油 8,693 食品ごま 1,999 脱脂ごま他 258</small>	10,971 <small>ごま油 8,792 食品ごま 1,941 脱脂ごま他 237</small>	18 <small>ごま油 98 食品ごま △58 脱脂ごま他 △21</small>	0.1%	<p><ごま油 売上高減少> 販売数量...家庭用は価格競争が激しく、微減であったが、業務用・輸出用が増加し全体では2.5%の増加。 販売価格...家庭用は安価攻勢の中、販売費で対応した。業務用は他社の値下げ攻勢により低下。輸出用は不変。</p> <p><食品ごま 売上高減少> 販売数量...前年同期比1.5%減。 販売価格...前年同期比1.5%減。</p>
売上原価	6,085	6,095	9	0.1%	<ul style="list-style-type: none"> 原料払出価格低下(仕入価格約5.0%下落による) 工場の経費約30百万円増加もあり売上原価微増
販管費	3,278	3,591	312	9.5%	<ul style="list-style-type: none"> 拡売条件費 約180百万円増加 広告宣伝費 約90百万円増加 販売促進費 約30百万円増加
営業利益 <利益率>	1,587 <14.5%>	1,285 < 11.7% >	△302	△19.0%	
経常利益 <利益率>	1,577 <14.4%>	1,306 < 11.9% >	△271	△17.1%	
当期純利益 <利益率>	913 <8.3%>	872 < 8.0% >	△40	△4.4%	

【為替】

原価計上レート¥/\$

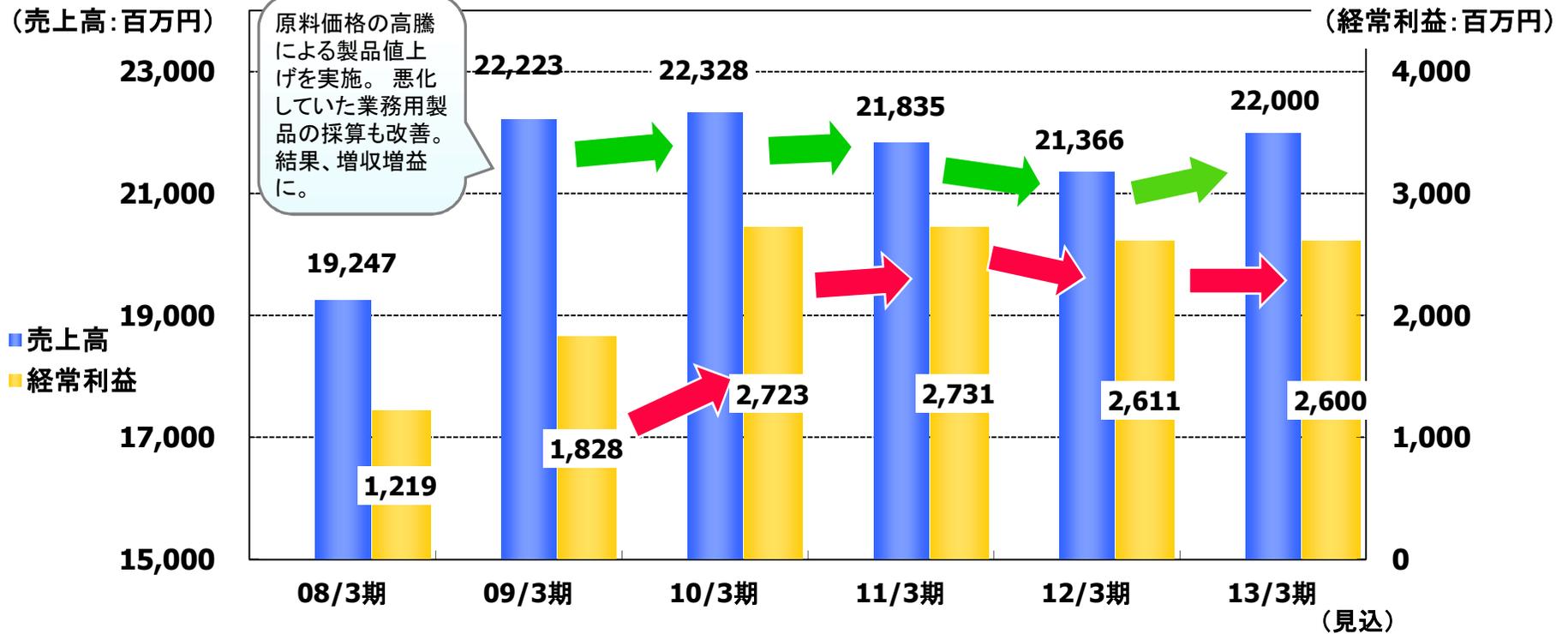
81円
82円

81円
81円

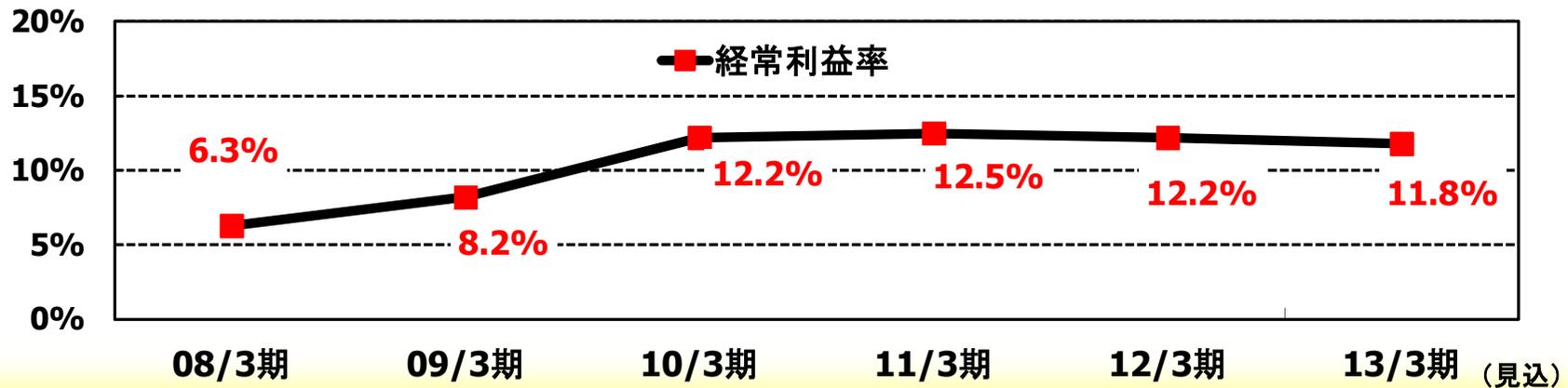
※ 金額は表示単位未満切捨て。



2012年3月期 売上高、経常利益、経常利益率の推移



※金額は表示単位未満切捨て。





貸借対照表

(単位:百万円)	12年3月期 期末	構成比 (%)	13年3月期 第2四半期末	構成比 (%)	前期末比	
					増減金額	増減率
資 産						
■流動資産	16,540	71.3	16,523	71.2	△16	△0.1%
■固定資産	6,661	28.7	6,689	28.8	28	0.4%
資 産 合 計	23,201	100.0	23,213	100.0	11	0.0%
負 債						
■流動負債	4,194	18.1	3,950	17.0	△243	△5.8%
■固定負債	812	3.5	842	3.7	30	3.7%
負 債 合 計	5,006	21.6	4,793	20.7	△213	△4.2%
純 資 産 合 計	18,194	78.4	18,419	79.3	225	1.2%
負 債・純 資 産 合 計	23,201	100.0	23,213	100.0	11	0.0%

※ 金額は表示単位未満切捨て。



3. 2013年3月期 事業計画



12/3期比較の13/3月期 事業計画

(単位： 百万円)	12年3月期 実績	13年3月期 予想	前期比		増減要因
			増減金額	増減率	
売上高	21,366 <small>ごま油 17,024 食品ごま 3,881 脱脂ごま他 461</small>	22,000 <small>ごま油 17,600 食品ごま 4,000 脱脂ごま他 400</small>	634 <small>ごま油 576 食品ごま 119 脱脂ごま他 △61</small>	2.9%	<p><売上高増 約6.3億円> 主力製品200gに加え、ラージサイズ(300g・400g)製品の販売強化、業務用製品の販売強化、業務用製品の販促キャンペーン、新規大口ユーザーとの取引開始、輸出も順調に伸展を目指し、通期で計画達成を見込。</p>
営業利益 <利益率>	2,606 <12.2%>	2,600 <11.8%>	△6	△0.3%	<p><営業利益> ごま原料価格の値上げもあるも、的確な交渉により、原料価格は予算の範囲内。一方、業務改善等の製造経費の増加により営業利益は微減。</p>
経常利益 <利益率>	2,611 <12.2%>	2,600 <11.8%>	△11	△0.4%	
当期純利益 <利益率>	1,439 <6.7%>	1,500 <6.8%>	61	4.2%	<p><経費> マーケット動向を把握して、拡売条件費用を的確にコントロールし、当初計画のテレビCM費用を絞り込み、通期経常利益を達成する。</p>

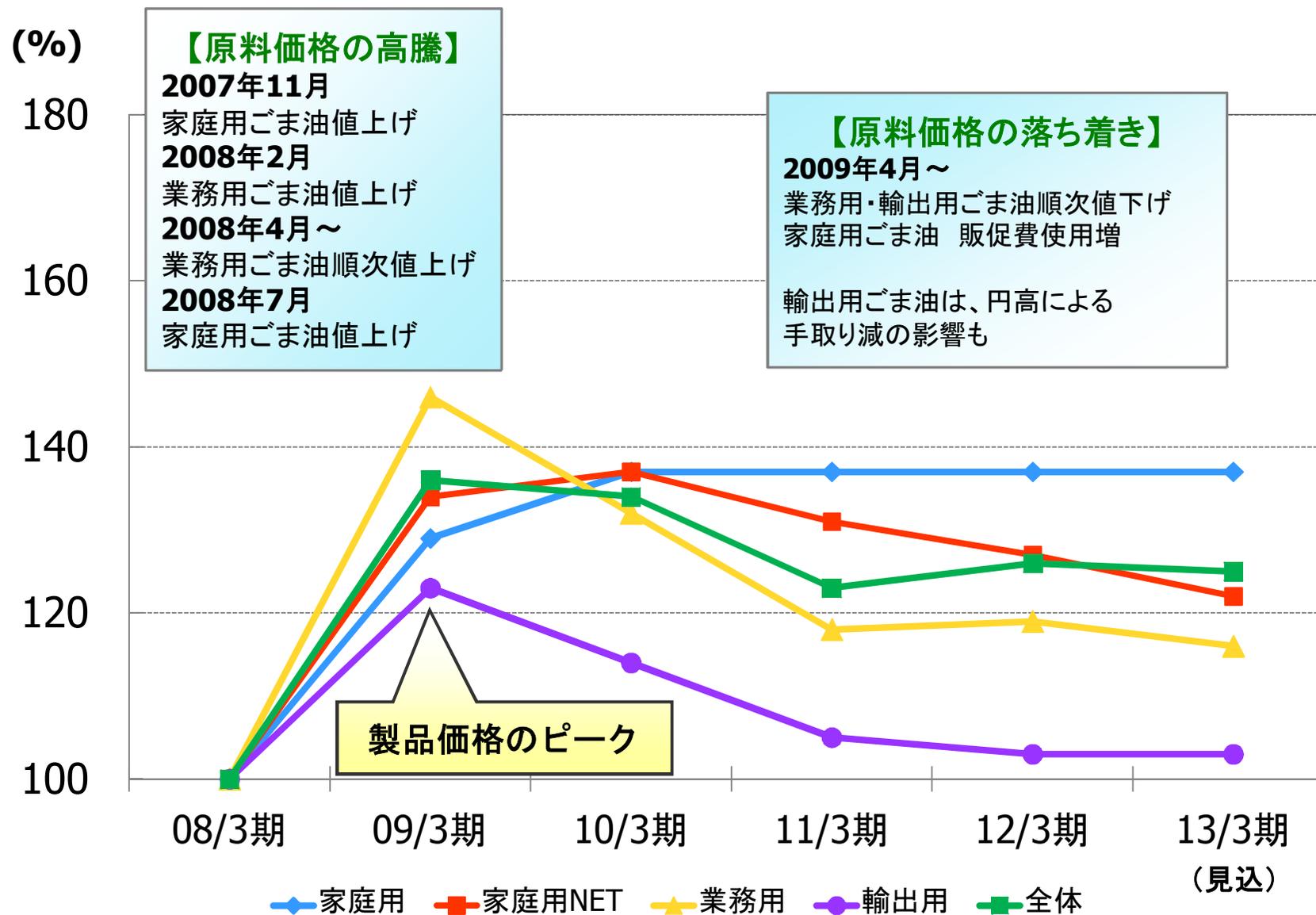
下期想定為替レート¥/\$ 80円

下期為替レート1円変動による損益への影響額 約15百万円

※ 金額は表示単位未満切捨て。



ごま油平均単価の推移



※2008年3月期の価格を100とする。



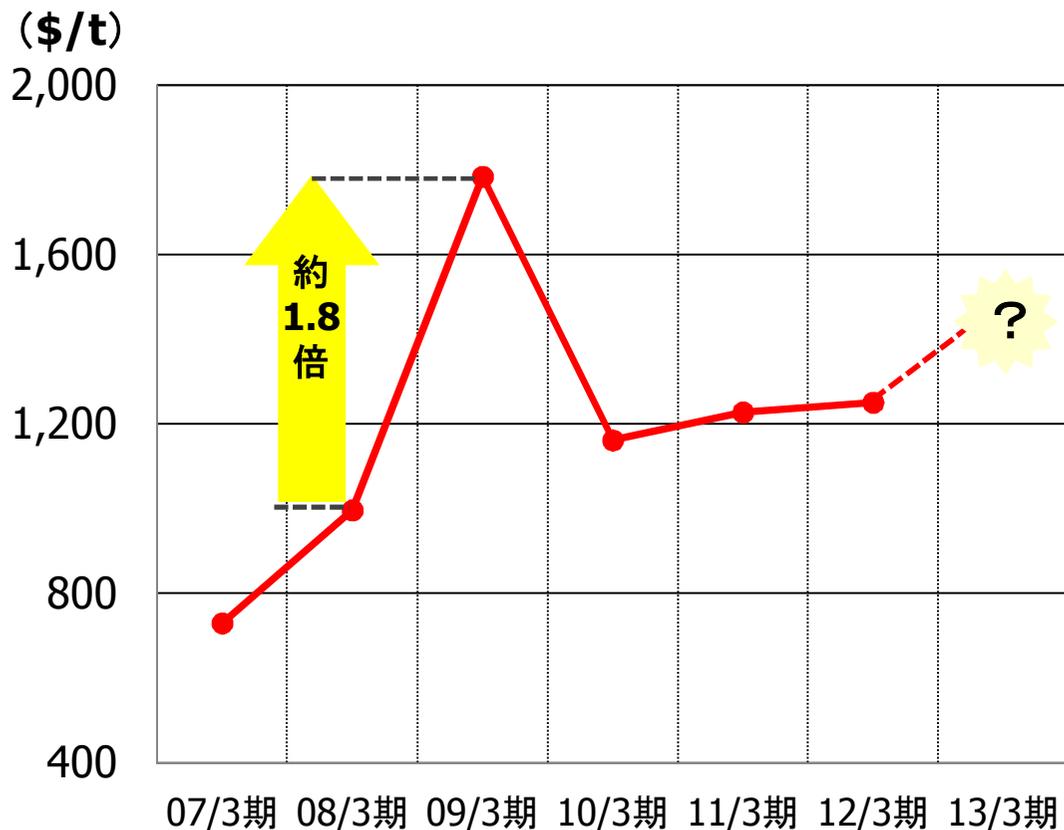
当社搾油用原料価格の動向(年度平均)

<2013年3月期の見通し>

6月以降収穫された東アフリカ(タンザニア、モザンビーク)において、アメリカ等の早魃(かんばつ)による他穀物(大豆、とうもろこし)の価格高騰、中国の旺盛な需要等の影響を受け、1,200~1,300ドル/トンから一気に1,500ドル/トンまで高騰した。

11月以降に西アフリカ(ナイジェリア、ブルキナ・ファソ)の収穫時期を迎えるが、天候も順調で生産量は昨年同等以上になる見通しから価格は一旦軟化した。世界3大産地のインド、中国、ミャンマーにおいて、いずれも早魃等の天候要因により減産見通しとの事から、足元の価格は再び1,400ドル/トンに上昇している。

波乱要因 : 中国の急激な買付
天候不順による減産
他穀物価格の高騰
生産国の政情不安



<2009年3月期の原料価格高騰の要因>

- ① バイオエタノール原料の需要増で
トウモロコシ・大豆価格高騰の煽り
- ② 中国・中東の旺盛な買い
- ③ 瞬間的に売り手市場となり、約2,500ドル/トンでの取引も
なされ、まとまった量の確保が困難な局面も

健康でより豊かな食生活に貢献

証券コード 2612

角 かどや製油株式会社
2013年3月期第2四半期 決算説明会



経営展望について
2012年11月7日(水)
代表取締役社長 小澤二郎



経営展望について

- 1. 販売**
- 2. 販売促進策**
- 3. 原料**
- 4. 経営展望**



1. 販売



販売①(ごま油)

依然として続くデフレ傾向、消費者の低価格志向
焼肉業界の回復傾向

	家庭用	業務用	輸出用
上期実績	<ul style="list-style-type: none">・主力200gに加え、ラージサイズ300g・400gの自社製品の特売価格を引下げ、値頃感を訴求・競合他社の安価な調合ごまに対抗・NB製品伸長するも特にスーパー向けPB製品が減少し販売数量は前期並み	<ul style="list-style-type: none">・外食市場では焼肉店の食中毒問題等の落ち込みから回復傾向・新規加工ユーザーの獲得もあり販売量は微増、他社の安値攻勢もあり、売上高は微減	<ul style="list-style-type: none">・北米(主に米国)の既存顧客(問屋)向け販売が堅調(特に韓国系・中国系への販売が予想以上に堅調)・新規大口加工ユーザーの獲得
前年同期比	売上高微増 数量微減	売上高微減 数量(2%増)	売上高(8%増) 数量(8%増)
下期計画	<ul style="list-style-type: none">・主力製品である200g以外のラージサイズ製品の特売回数を増加・レシピ・メニュー提案を行う店頭販促の強化	<ul style="list-style-type: none">・業務用製品対象の販促キャンペーンの実施・全国の卸店との勉強会や共同開発を通じて提案強化・惣菜、業務用冷凍食品メーカー等に対する新顧客開拓	<ul style="list-style-type: none">・北米既存ビジネスの伸長・ヨーロッパ向けビジネスの市場獲得・新規PB商品の開発等



販売②(食品ごま)

外食不振から、内食へのシフト
中小メーカーとの価格競争が激化

	家庭用	業務用
上期実績	<ul style="list-style-type: none">・「からだのごちそう」シリーズを重点製品に位置付け、拡販推進・量販店(スーパー等)における定番化を拡大	<ul style="list-style-type: none">・加工原料向け及びPB品微増・外食向け数量微減・販売価格下落による売上高減少
前年同期比	売上高(5%増) 数量(7%増)	売上高(-4%減) 数量(-2%減)
下期計画	<ul style="list-style-type: none">・ごま油の使用法を示したレシピ提案等による新規PBコンペ獲得・量販店における定番化の更なる強化	<ul style="list-style-type: none">・大口卸への重点拡販キャンペーン・大口加工ユーザーへの拡販



販売③(輸出用ごま油)

実績販売数量

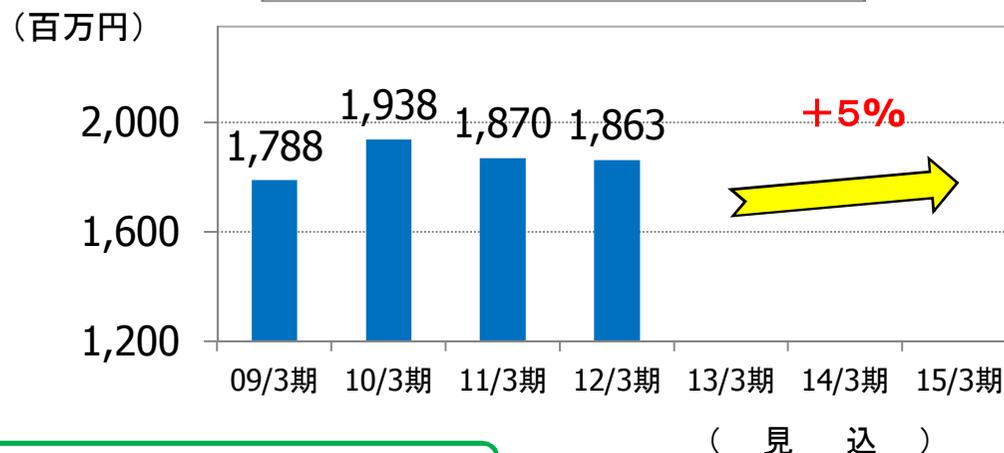
2013年3月期 第2四半期

販売数量 約2,040t

本年度上半期は既存客先の増加に加え、新規加工ユーザーの獲得もあり、前年比数量ベースで108%。

下半期は計画通りの販売を予測し、通年では当初計画を上回り5%の伸長を予測。

輸出用ごま油 販売金額推移



輸出分野での施策

① 既存顧客への拡販

- ・米・加のアジア系人口増加によるマーケット拡大させるため、販促を実施することで取り込む
- ・ヨーロッパ・東南アジア・オセアニアでの営業活動を強化する

② 新規顧客の獲得

- ・交渉先からの新規案件(PB商品等)を獲得し、新たな販路を開拓する
- ・コーシャ認証(※)取得により、新規需要及び加工ユーザーを掘起す
- ・2012年6月米国ラスベガスでの業務用展示会「IFT12」に出展したことにより、新規顧客の掘起しを行う

(※「コーシャ認証」・・・ユダヤ教の戒律に基づく、食品に関する認証制度。)



2. 販売促進策

販売促進策①

<大手料理学校との連携> (ABC クッキングスタジオ、東日本料理学校協会)

- ①商品のPR、サンプル提供
- ②アンケート実施

<大学食堂でのPR活動> (将来のユーザー囲い込みを企図して)

若年層への認知向上や啓蒙強化を目的に、学生食堂卓上にごま油を提供し、学生の自由な発想での利用促進を図る。

今期上期は法政大学、國學院大学・拓殖大学の3校で実施した。(6月~7月)

下期は慶應義塾大学、明治大学、日本体育大学の3校で実施する。(11月~12月)



<店頭販促強化>

- ①店頭での消費者とのコミュニケーション強化の為、東京・名古屋・大阪の重点フォロー対象の量販店等で消費者動向を的確につかみ、未定番化商品や重点商品の定番化を図る。

- ②店舗での現状を確認の上、すぐさま消費者動向や情報把握の上、積極的・効果的な販売促進を実施していく。





販売促進策②（コラボレーション商品）

広告宣伝効果が大きく、当社ブランドの醸成にとって重要なラインナップ。
一部の商品は例年販売実績があり、手ごたえもある。

＜カルビー株式会社様＞ 「ポテトチップス しおとごま油味」

（2008年3月より販売）

2008年は期間・地域限定の販売。
消費者より好評を得て、2009年からは販売期間を延ばし、
全国で販売。2011年よりレギュラー商品化。



＜ニコニコのり株式会社様＞ 「海苔佃煮 純 黒ごまら一油入」

（2012年1月より発売）

国産の黒海苔にこだわり希少価値の高いプレミアム商品
である当社「黒ごまら一油」のコラボ商品。全国で販売。



＜株式会社栗山米菓様＞ 「韓国のり味 かきもち」

（2012年12月10日発売）

人気の食材「韓国海苔」を、香ばしいかきもちで商品化。焼き海苔を
生地につっぷり練りこんで、さっくりと焼き上げ、“かどやの純正ごま油”を
ブレンドした特製調味油で味つけ。海苔の風味とごま油の香りが
食欲をそそる、ひとくちサイズながら食べ応えのある贅沢な逸品。



※ 他にも、有名パンメーカーや米菓会社とのコラボレーション商品あり。商品も、パン・お菓子等にとどまらず冷凍食品にも広げている。



販売促進策③(店頭コラボレーション企画)

展開例

<ふじっ子/日の出みりん>

- ・油棚以外の売場獲得、販売促進を企図。

POPを使用しての訴求を中心に、日配食品や他カテゴリーの加工食品とのコラボを推進している。
生鮮売場での什器を使用したクロスMDも積極的に展開している。

<コラボPOP>



<日配食品・生鮮食品売場での展開>



<提案型CMと店頭訴求の連動>

- ・TVCMで紹介した使い方を、店頭POPでも訴求。
消費者接点を最大限に活用し、利用促進を企図。

<TVCM>



<TVCM連動の店頭POP>





販売促進策④（通信販売商品）

〈かどやのごまセサミン〉（2010年7月販売開始）
ごま専門メーカーのかどやが作ったセサミン。
ごま油、食品ごまに続く当社の第三の柱としていく。



〈2012年9月期 実績〉

定期購入コース加入者が毎月順調に増加。
同時に売上金額も順調に伸長。

〈2013年3月期 施策〉

「お客様の声ハガキ」を用いて、積極的に顧客要望等のヒアリングを実施。
顧客サービス向上により継続的な受注に繋げたい意向。
その他、ダイレクトメールを活用し、商品購入機会の創出、当社商品紹介等により売上高アップを目指す。

〈黒ごま&オリゴ〉（2009年7月販売開始）
ねりごまにオリゴ糖・はちみつ・黒砂糖の上品な甘味を加えた商品。



〈2012年9月期 実績〉

まとめ買いキャンペーン（「3パックスリムチャンス」）を展開。
継続的にサンプリング、広告出稿により新規顧客を獲得。

〈2013年3月期 施策〉

2009年7月の発売以来、根強いヘビーユーザー様のおかげで通販事業に不可欠な商品。
当商品の料理レシピ提案、認知度アップ施策等により更なるヘビーユーザー獲得を目指す。



3. 原料



原料の安定調達

現 状

世界的に需要の増加傾向が続くが、賄えない量ではない

- ① ごま種子の生産 — 全世界の生産量は増加。
2011年度生産量：約370万トン(出典:Oil World)
生産国で天候異変・農薬問題等のリスクが発生しやすい
- ② ごま種子の需要 — 需要の強い中国並びに中東の動向が注視される。
- ③ 穀物価格の高騰 — ごま作付面積の減少懸念

調達方針

商社の強力なチャンネルを活用し、高品質の原料を安定的に調達

- ① 優良な産地・現地の輸出業者との取り組みを強化すると同時に、新たな調達先の選択肢を増やす
- ② 作付面積の変化や天候情報、収穫時期・収穫見込数量について、迅速・的確な情報収集を行う



食の安心・安全について

背景

1. 食品自体の安全性に関する問題（例：異物混入）
2. 食品会社のモラル・コンプライアンスに関する問題（例：偽装）

当社の方針・施策

- ① 原材料から最終商品までのフローをマニュアル化
品質管理部門のスタッフを増やして体制を強化
- ② 原料の残留農薬に対し、自社検査機能を備え、公的機関へも検査を依頼
- ③ 全従業員へのコンプライアンスの徹底

消費者の皆様には安心・安全なごま製品を提供できるよう、
常に向上・強化を図ることで信頼を得て、売上拡大に繋げる

※ 放射能による影響に関して、以下の理由により当社製品は安全と判断しています。

- ① 小豆島工場(香川県)は福島原発より離れており、影響を受けていない
- ② 公的機関及び当社の放射能検査において、工場・製品ともに問題ない。
- ③ 原料であるごまは、ほぼ全量が海外産である

<食品表示について>

消費者庁では、食品の各種表示について見直しを進めていますが、現在、食用油脂における表示(原料原産地やトランス脂肪酸の含有量など)についての義務化は見送られています。



4. 経営展望



中期経営計画(前提、計画数値)

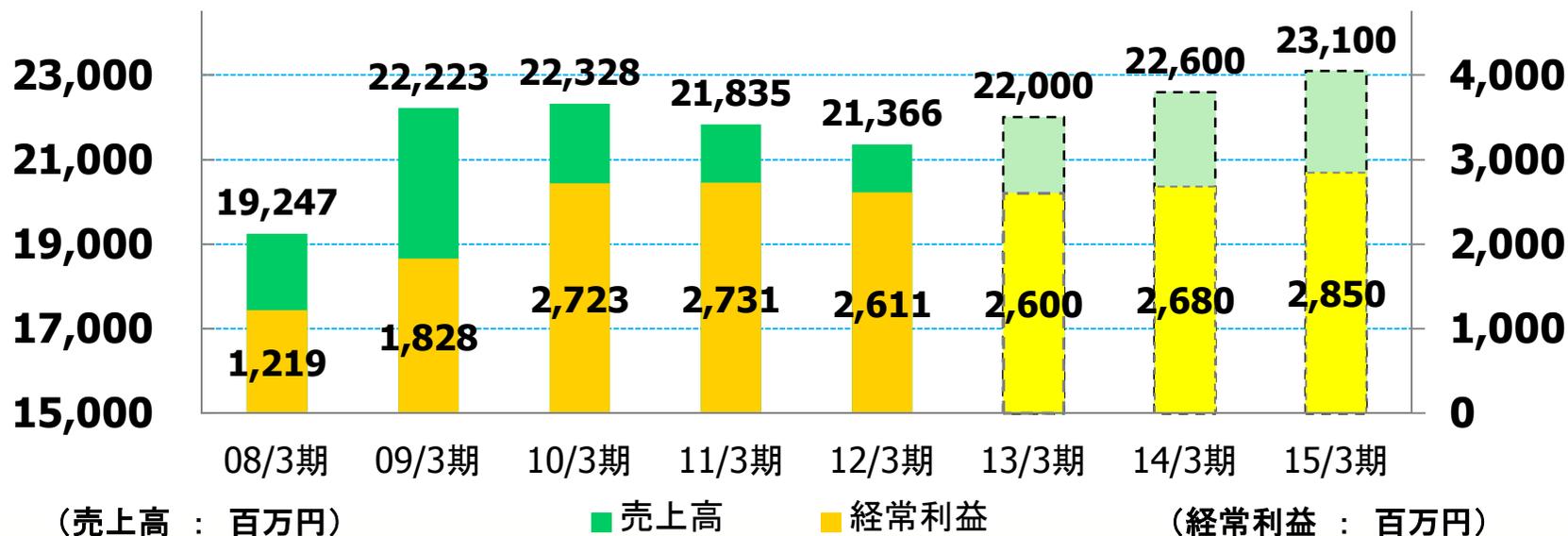
前提

- ① 為替：80円
- ② 原料価格：現状でほぼ安定
- ③ 製品価格：12/3期末価格で推移

〈2012年3月作成〉

中期経営計画

(単位：百万円)	12/3期実績	13/3期	14/3期	15/3期
売上高	21,366	22,000	22,600	23,100
経常利益	2,611	2,600	2,680	2,850





中期経営計画

販売策、計画販売数量

- ① 家庭用ごま油は、**13/3期**は販売数量を前期比**103%**を目指す。
14/3期及び**15/3期**は前期比漸増。
純正ごま油**200g**主体の販売戦略から**ラージサイズ(300g・400g)**を含めた**主力3品**を中心に、その他製品もバランスよく拡売を実施していく。
- ② 業務用ごま油は、**13/3期**は前期比**104%**を目指す。**14/3期**及び**15/3期**は前期比漸増。
13/3期は新規獲得による数量増を図る。中期計画達成に向け、従来の加工メーカーに加え中食関連企業への提案を強化する。
14/3期以降は「安心・安全・高品質・用途提案」を最大限にアピールし、新規ユーザーを囲い込む。
- ③ 輸出用ごま油については、**13/3期**～**15/3期**は毎年**+5.0%**の割合で伸ばす。
- ④ 食品ごまについては、加工メーカー様他家庭用**PB**提案にも注力し増販を図る。

今後の課題

- ① 原料供給ルートが多様化(特に白ごま・黒ごま)
- ② 小豆島ごま油工場のリニューアル工事



配当性向

2007年3月期より、業績に連動させた配当に変更。
配当性向の目標は、当期純利益の**40%**を目処とする。
但し、業績に関わらず、
1株当たり20円以上の配当を継続して行えるよう努力。

2013年3月期の期末配当金は
1株当たり65円の予定。



※ご注意

当資料に記載されている内容は、資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

【お問い合わせ先】

かどや製油株式会社

〒141-0031

東京都品川区西五反田8丁目2番8号

TEL 03-3492-5545 FAX 03-3492-5985

取締役執行役員管理部長 戸倉 章博

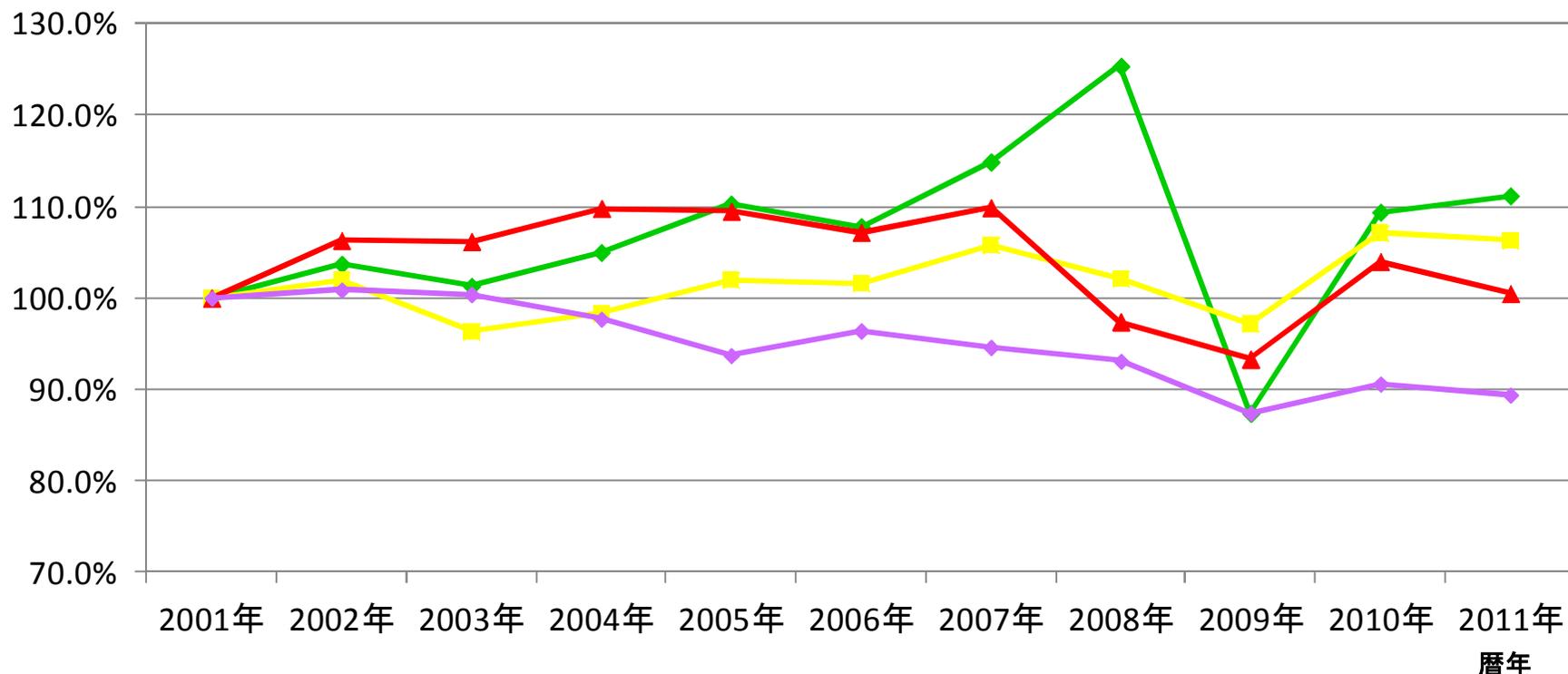
URL <http://www.kadoya.com/>



付 属 資 料



わが国のごま種子輸入量と搾油状況



	(2001年)	(2011年)	(伸び率)	(2012年1月から9月)
◆ 全国ごま種子輸入量	147,563	164,097	111.2%	118,764
■ 全国ごま油生産量	42,723	45,397	106.3%	33,248
▲ 当社ごま油生産量	22,958	23,067	100.5%	17,556
◆ 全国可食油生産量	1,829,334	1,634,948	89.4%	1,211,258

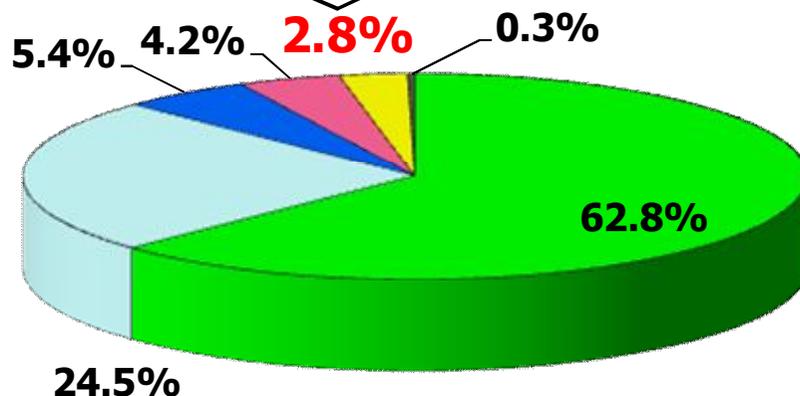
(単位:トン)

資料: 財務省通関統計
 農林水産省作成
 「油糧生産実績表」



わが国の油糧(可食油)生産量実績

2011年油糧生産量(1,634,948トン)内
のごま占有割合



2011年(1~12月)油糧生産量 1,634,948トン

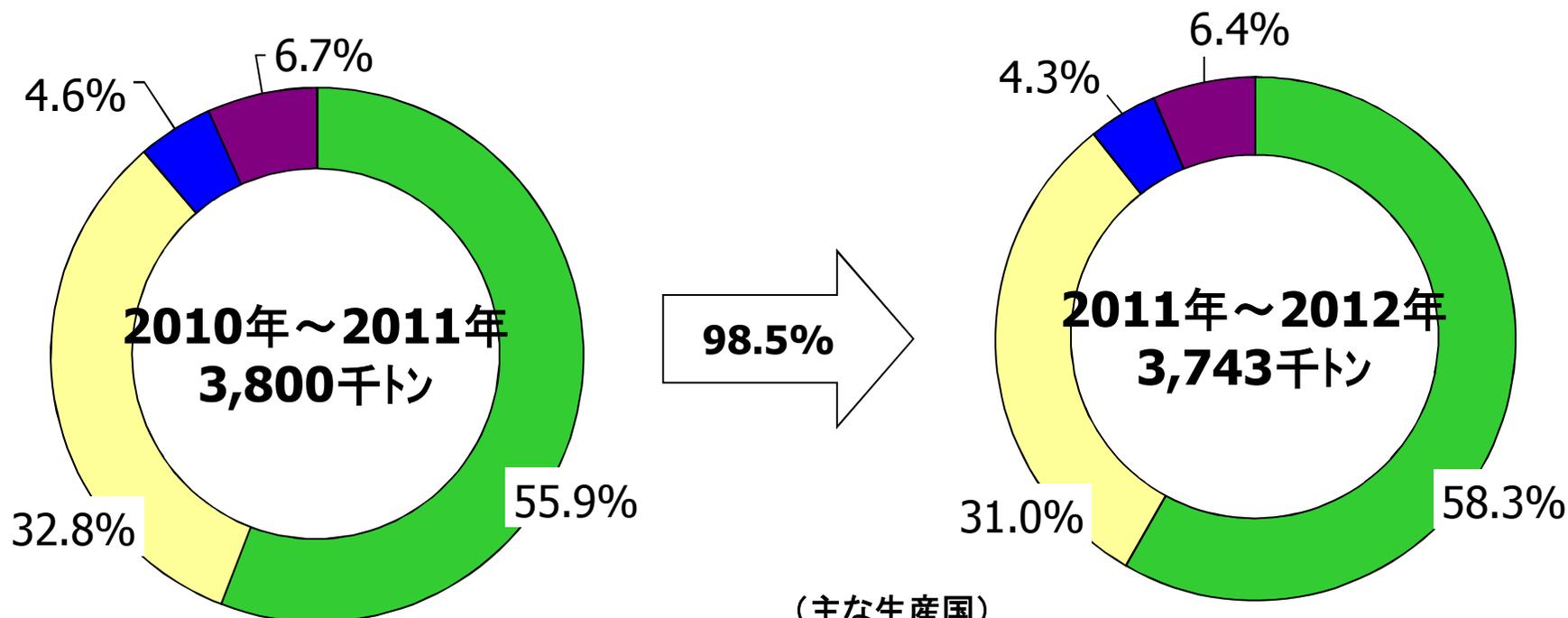
- 菜種
- 大豆
- とうもろこし
- 米ぬか
- ごま
- 紅花
- その他

	2001年 (数量:トン)	2011年 (数量:トン)	増 減	
			(数量:トン)	(比 率)
菜種	882,854	1,026,574	143,720	16.3 %
大豆	714,015	401,455	△312,560	△43.8 %
とうもろこし	106,217	87,735	△18,482	△17.4 %
米ぬか	63,196	68,775	5,579	8.1 %
ごま	42,723	45,397	2,674	6.3 %
紅花	13,011	-	△13,011	- %
その他	7,318	5,012	△2,306	△31.5 %
合計	1,829,334	1,634,948	△194,386	△10.6 %

資料: 農林水産省作成
「油糧生産実績表」



世界のごま種子生産量



資料: Oil World Annual 2012
※ 生産量の数値は、9月から翌年8月までを1年として集計されたものです。

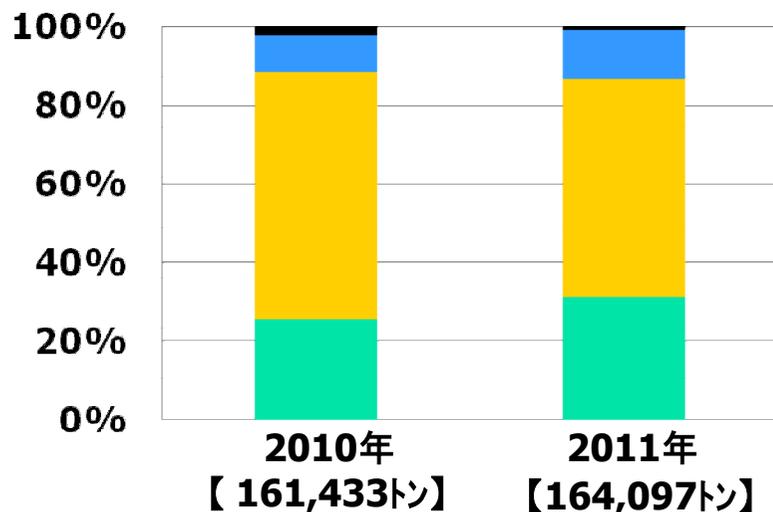
(主な生産国)

単位:千トン	2010-2011年	2011-2012年	増減
インド	740	750	10
ミャンマー	580	620	40
中国	588	587	△1
スーダン	248	280	32
エチオピア	314	216	△98
ウガンダ	170	173	3
ナイジェリア	165	155	△10



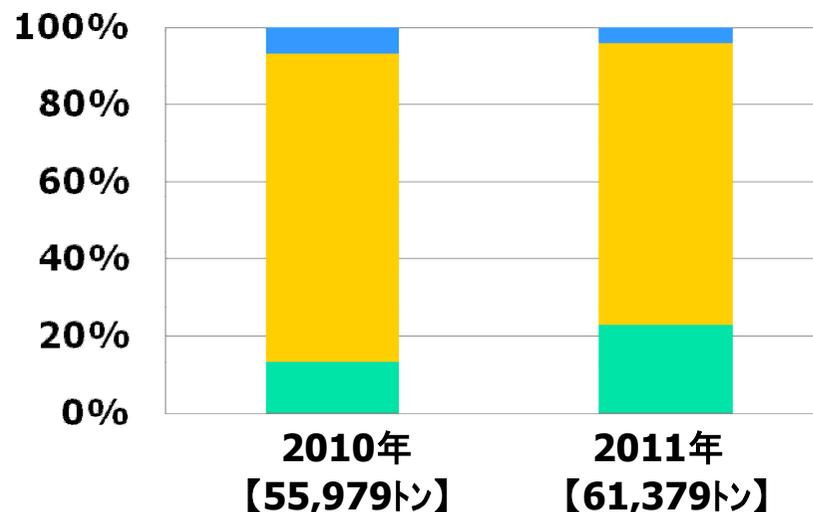
わが国のごま種子輸入実績

全国



地域	2010年 (%)	2011年 (%)
■ 中国	2.1%	0.9%
■ 他アジア・中東 (ミャンマー・トルコ他)	9.2%	12.3%
■ アフリカ (ナイジェリア・タンザニア他)	63.2%	55.8%
■ 南北アメリカ (パラグアイ・グアテマラ他)	25.5%	31.0%

当社



地域	2010年 (%)	2011年 (%)
■ 中国	0%	0%
■ 他アジア・中東 (ミャンマー・ベトナム)	6.8%	4.2%
■ アフリカ (ナイジェリア・タンザニア他)	80.1%	73.1%
■ 南北アメリカ (パラグアイ・アメリカ他)	13.1%	22.7%

資料: 財務省通関統計